



No.12

2014-9 発行

甲状腺癌治療における診療連携のご案内

頭頸部・甲状腺外科 教授 辻 裕之
講師 下出祐造
集学的がん治療センター 教授 元雄良治

日本における甲状腺癌の治療法としては、外科治療、放射性ヨウ素内用療法、甲状腺刺激ホルモン抑制療法、放射線外照射治療などが標準治療です。分化型甲状腺癌は一般的に予後良好ですが、手術不能放射性ヨウ素治療抵抗性の分化型甲状腺癌は予後不良であり、これまで新たな有効な治療法が望まれていました。このような中、第Ⅲ相国際共同治験の結果を基に、マルチキナーゼ阻害剤であるソラフェニブ（ネクサバル®）が、根治切除不能な分化型甲状腺癌に対する効能追加が本邦にて2014年6月に承認されました。

日本においては、甲状腺癌治療の多くを甲状腺外科医、内分泌外科医が担っていますが、このような新規分子標的薬剤の適切な処方と有害事象のマネージメントのためには、がん薬物療法専門医との連携という選択肢があれば、より安全かつ有効な治療が可能になると考えられます。そこで、日本臨床腫瘍学会・日本内分泌外科学会・日本甲状腺外科学会は、甲状腺癌における分子標的薬剤の適正使用と治療成績の向上、相互の教育の推進を目指し、学会間の診療連携協力（甲状腺癌診療連携プログラム）を推進することとなりました。具体的には地域ごとに病・病、病・診連携事業や教育啓発事業を行います。北信越ブロックのサブリーダーを当院頭頸部・甲状腺外科下出祐造講師が担当することとなり、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医で当プログラム協力医師である元雄良治教授（腫瘍内科学）とともに当院もプログラムに参加して甲状腺癌の治療を行ってまいります。

つきましては、先生方のご協力のもと、患者さんにより良い甲状腺癌治療を受けて頂けるよう、当診療連携プログラムをご活用頂きますようお願い申し上げます。治療のご依頼ならびにプログラムに関するご不明な点がございましたら、当院頭頸部・甲状腺外科外来 下出祐造までご連絡ください。

詳細は、甲状腺癌診療連携プログラム（<http://www.jsmo.or.jp/thyroid-chemo/program/>）がインターネットで公開されましたのでそちらをご参照ください。

甲状腺外科初診外来（担当医；下出祐造講師）は毎週木曜日、金曜日、集学的がん治療センター初診外来（担当医：元雄良治教授）は火曜日、金曜日です。

（問い合わせ先）

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学一丁目一番地

TEL 076-218-8219 FAX 0120-076-286

金沢医科大学病院

地域医療連携事務課

regional@kanazawa-med.ac.jp

Kanazawa Medical University Hospital